

《履修上の留意事項》基本、対面授業で実施

《担当者名》○中川賀嗣 今井智子 太田亨 下村敦司 田村至 榊原健一 橋本竜作 福田真二 黒崎芳子 小林健史
前田秀彦 柳田早織 飯泉智子 葛西聡子

【概要】

教育基本法では、大学の役割に「新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより社会の発展に寄与する」と述べられている。新たな知見の創造とは研究を意味する。

大学を卒業することは研究力を身につけ、私たちの未来に創造的に貢献できるようになることが求められている。卒業研究では、言語聴覚学の分野で多岐にわたる多様な研究がなされていることを知り、研究体験を通じて研究の方法を具体的に把握する。

【学習目標】

言語聴覚療法の専門性を深めて研究力を身につけるために、各専門領域に関わる研究を実施でき、およびその成果を発表できる。

1. 研究に必要な情報を収集できる。
2. 科学的文書を論理的に作成できる。
3. 論文形式等の文書が作成できる。
4. 科学的なコミュニケーションができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1 { 15		卒業研究レポート作成は、研究体験、論文作成の体験により研究法を具体的に学ぶ科目である。各学生は、担当教員の下に、適当な研究テーマをもち、必要な研究体験をしながら、必要な情報の収集、整理をし、論文形式のレポートを期限までに書き上げる。これらを通じて、科学的な考え方、論理的思考、科学的記述法を学ぶ。レポートは、そのまま雑誌に印刷できる形で提出される。この作業の課程でみえるコミュニケーション力、行動力、持続力、集中力、情報収集力、応用力、適切な記録力、計画力、自己学習力などもいれて評価する。	全担当教員

【評価方法】

卒業研究レポート 100%

【備考】

教科書 : 各担当教員が、適宜紹介する。

参考書 : 各担当教員が、適宜紹介する。

その他 : 指定された書式に従って書かれた卒業研究レポートを、提出期限までに提出しなければならない。

【学習の準備】

それぞれの担当教員の指示に従って準備を行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP5）世界の、そして我が国の人口構成の変化、価値観の変化、文化や暮らしの変化、そして絶えず発展し続ける科学、そして医学。その中で私たちは常に人々の健康とより良い暮らしへのニーズに言語聴覚療法科学をもって応えていかなければなりません。その専門性をより広く、深く、科学的に追及していくために、能動的に研修と研究を通して自己研さんしていける能力を身につけます。